

亀山湖の花火大会、君津駅南北の七夕祭り、小櫃、貞元の夏祭り。と、各地で商店街が中心となって祭りが行われて不況の中で光明を与える役目を果たしております。商店街の祭りはPRには大変効果があり、日頃のお客様へのお礼、サービスの役目もあります。しかし、不況の中での物心両面の負担もまた大変なものです。折角の商店街ですから経済効果が少しでも大きくなる様にと望みたいものです。

例えば家族ウォークラリー方式、抽選会を取り入れて、抽選付割引券「エコマネー」「入場券」などを発行して、協賛商店街での買い物に結びつけるなどし、必ず還流させる方式を手始めとして、やがては全市へ通常の（仮称）エコマネーとして普及したいものです。

消費者の方から何故、君津ではできないのかとの手厳しい問いかけもありました。この課題は、会議所の問題としてではなく、今後は早急に、市、農協、観光、飲食、JR、製鐵所、消費者団体等と、今まで以上の緊密な関係を持って、バラバラで立案された企画を一本化して、会議所が実行者としての役目を任せられる様に一層の努力をしたいものです。

これらの提案について、いま申し上げたいことは、すべてスピードをもっと上げて、理論、提案から実行への距離もっと短くしなければ間に合わなくなってしまうということです。